HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「楡蔭」124号
Issue Date	2006-11-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66302
Type	journal
File Information	yuin124.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

ISSN　0917-3684

Hokkaido University Library Bulletin No.124 Nov.2006

楡蔭

Yuin　北海道大学附属図書館報

目　次

巻頭言
　インターネット時代の学術情報と研究者そして図書館
　　理学研究院　助教授　栃内　　新……1
北分館改修に関する学生アンケート（報告）……6
お知らせ
　来館日誌（平成18年７月～10月）……9
　オープンユニバーシティが実施されました……10
　北海道大学附属図書館講演会を開催しました……11
インターンシップ
　平成18年度附属図書館インターンシップ（図書館実習）について……12
　図書館情報学実習を終えて
　　筑波大学図書館情報専門学群３年　田原　咲子……13
資料紹介
　平成18年度特別図書購入費による購入資料……15
附属図書館北方資料室紹介（シリーズ２）……18
教員著作寄贈図書・学術成果コレクション（HUSCAP）
寄贈文献（平成18年６月23日～10月20日）……20
会議（平成18年７月15日～11月17日）……21
各委員会等委員変更について……22
人事往来……22
図書館日誌（平成18年７月～10月）……23

インターネット時代の学術情報と研究者そして図書館

理学研究院　助教授　**栃　内　　新**

はじめに

北海道大学図書館が運用しているHUSCAPという名の「機関リポジトリ」が全国の大学・研究機関の先頭を走っていることをご存じだろうか。ほとんどすべての学術情報がインターネットを通じて流通する時代になり，図書館のあり方も大きく変わろうとしている。学術雑誌へのアクセスも投稿も，すべてが机の上に置かれたコンピューターからできてしまう日常を過ごしていると，時として図書館の存在を忘れてしまいがちになる。しかし，一歩大学を出て学外のネットワークから同じ学術雑誌にアクセスしようとしても，北大図書館のライセンスなしには論文も読めないことがわかる。インターネット時代の今，大学図書館を有効に使えるかどうかが，研究機関の未来を左右する大きな鍵となる。

学術情報今昔

大学を構成する主要なメンバーは，学生と教

員と事務職員である。学生は教育を受けるために大学に来るが，ほとんどすべての教員は学生の教育に携わる一方でテーマを持って研究もしている。ただし，研究という同じ言葉でくくられていても，文系と理系とではその中身は大きく違うし，同じ理系でもさらに細かな違いがあるので，自分の所属するところ以外の研究者の実態は実のところよく知らない。ただし，いずれの分野でも研究のために学術情報の操作を必要とすることに違いはないだろうし，その情報の集散ハブが図書館であり続けてきたことも，また歴史的事実であろう。

文系の研究でも基本的には同じなのだと思うが，理系の研究分野においては日進月歩で進展する研究をフォローするために，新しく出版される学術論文に目を通し続ける必要がある。分野にもよるのだろうが，私個人のことを振り返れば，週刊・月刊・隔月刊・旬刊などのペースで発刊される関連論文をチェックするために，かつては週一回くらいのペースで図書館に通っていた記憶がある。インターネットによるアクセスが発達した現在，自分のオフィスにあるコンピューターから気軽に，さらにたくさんの雑誌をいつでも気軽にチェックすることができるようになり，実際に図書館に行く必要はほとんどなくなった。では，図書館はいらなくなったのだろうか。

見えない図書館

ほとんどの学術雑誌では，新刊が発行されるとその目次情報をメールで送ってくる TOC（Table of Contents）サービスを無料で行っている。メールで送られてくる論文タイトルのひとつひとつには URL アドレスが付いていて，それをクリックするだけで原著論文にアクセスできるしくみになっている。原著論文は，ホームページ形式（html）で見ることもできるし，印刷論文と同じ形式で表示される pdf ファイルをダウンロードしてハードディスクに保存して利用することもできる。私の場合は，興味ある論文をまず表示の早い html で確認し，重要だと思われるものは，pdf ファイルをダウンロードする。

普段，大学の中でこうしたサービスを利用していると，このサービスが図書館と関係していることは実感しにくいのだが，自宅からこのサービスを利用しようとしてアクセスが拒否されるという経験をした時に，学術情報がタダではないことを強く実感した。一部の雑誌や論文を除いて，学術論文の全文アクセスは基本的に有料である。大学から学術雑誌サイトにアクセスして全文が読める時には，ほとんどの場合，ページの上のほうに小さく北大図書館に対するライセンスの表示があるはずで，我々が特別なログインもせずに原著論文を読むことができるのは，北大内のネットワーク（.hokudai.ac.jp）からアクセスしていることで，図書館が契約したライセンスの利用が許可されているからなのだ。つまり，我々は見えない北海道大学図書館を通じて学術情報にアクセスしていることになる。

シリアルズ・クライシス

楡蔭123（Jul. 2006）の大平先生による巻頭言「学術コンテンツ整備の現況について」に書かれているように，平成17年度に電子ジャーナルおよび学術文献データベースに対し，北大全体で約 4 億7600万円が支出されているとのことである。近年，そのほとんどが電子ジャーナル化された学術雑誌の経営は寡占化が進むとともに，値段はうなぎ登りで上昇を続けており，経済的に余裕のない研究者・研究機関が学術雑誌にアクセスすることが困難になるシリアルズ・クライシス（「雑誌の危機」）と呼ばれる状況が起こっている。こうした状況に対応して，北大では，それまで部局ごとに行われていた雑誌の購入を，図書館を中心に全学共通経費化した。こうすることで，北大全体としての重複購読な

どの無駄を合理化できただけではなく，今までは水産学部や獣医学部でしか購読していないために，わざわざ出かけていったり，コピーサービスを依頼したりということをしなければならなかった雑誌が，自分のコンピューターからいつでもアクセスできるようになるという，(少なくとも私にとっては) 夢のような利便性も得られるようになった。

しかし，これは北大のような比較的大きな総合大学だからこそ可能になったことで，小さな大学や研究機関ではひたすらに購読雑誌が減っていると聞いている。こうしたところでは，まさにシリアルズ・クライシスは研究継続の存亡の危機なのである。

なぜ有名雑誌は強気なのか

なぜ有力学術雑誌の値段が上がり続けるのかというと，値段を上げても出版社の収入が減らないからである。その背景には，研究者が有名雑誌を求める研究環境がある。

自然科学・社会科学系の学術雑誌には，ある民間データベース会社の引用文献分析による「インパクト・ファクター」という数値がつけられ，この「業界」における影響力の強さを示す指標のひとつとなっている。ある年のインパクト・ファクターは，その年の前年と前々年の２年間における当該雑誌の掲載論文の被引用度を示すため，研究者が多く流行になっている分野の雑誌のインパクト・ファクターが高くなる。しかし，ちょっと考えればわかるように，同じ研究分野のある時点における「雑誌の影響力」の差を知るためにしか使えないはずのこの数値が，研究費や研究職の獲得に際して研究者個人や研究機関の評価のために利用されるという根本的に誤った使われ方が一般化していることが，このシリアルズ・クライシスの原因のひとつであることは間違いないだろう。ある雑誌に掲載されることが，研究者や研究機関の命運にかかわるということであれば，関係者が経済効果の高い雑誌に投稿するために，購読したいと思う気持ちは理解できる。

研究の成果は誰のものか

そもそも，科学の営みは人類の共有財産である。そこまで哲学的にならずとも，我々の研究活動のほとんどは税金を財源とする公共の予算のサポートにより行われているという事実がある。その成果のひとつの発信形式である研究論文が，非常に高額な対価を支払って購読しなければ読むことのできない雑誌に発表されているということは，スポンサーである納税者に対する背信行為とも言えよう。

こうした科学業績発表の商業主義化に抗して，一方では雑誌の無料公開を目指すオープン・アクセスやフリー・ジャーナルという動きが出てきている。オンラインでのアクセスを前提とする限り，印刷費などは不要になるので最小限のコストでいわゆる学術雑誌形式の「出版物」を作ることができる。さらに，スポンサーを募ったり，出版することで個人的メリットを享受することが期待される著者から費用を徴収したりするシステムを採用することで，完全無料のフリー・アクセスが実現される。このような形式でもっとも成功しているもののひとつがPLoS (Public Library of Science) という生物医学系の「雑誌」群である。PLoSに掲載された全論文は完全に無料で公開されている。また，旧来の雑誌の中にも著者が特別料金を払うことで，その論文についてはオンラインで無料公開するというシステムをとるものが増えつつある。

機関リポジトリとHUSCAP

そうは言っても，相変わらず主要な雑誌の多くは高額な購読料を取り続けているという現実は変わらず，シリアルズ・クライシスはまだ「今ここにある危機」である。科学論文は著者達の科学的営みによって得られた成果を出版したものであり，その著作権が出版社にのみ帰属

し，その販売によって得られる収入のすべてが出版社にはいるのみならず，図版や文章の利用権すら著者に与えられないという従来のやり方に疑念は多い。そのような中で，論文の内容及び図版を著者の所属する機関（大学や研究所）のウェブサイトに限ってのみ公開を認める雑誌が増えてきている。この場合，雑誌として出版される論文の最終形態の著作権は出版社が所有するものの，そのもととなる最終版の論文原稿は著者にも著作権があり，それを自由に公開することを認めるということらしい。こうした機関ごとに，論文・著作をウェブ配信するサーバ・システムを機関リポジトリという。しかし，たとえインターネット上にバーチャルに構築するものとはいえ，機関リポジトリを実際に運用するためには，人・予算・環境が必要である。日本では国立情報学研究所のサポートを受けつつ，千葉大学，早稲田大学，北海道大学が先駆けとして機関リポジトリを構築，運用している。

機関リポジトリの問題点と将来

機関リポジトリの出発点は，大手出版社に支配されている学術情報流通を研究者・研究機関自身の手に取り戻そうということで，このアイディア自体に反対する人はあまりいないものの，実際に運用を始めてみるとなかなかスムーズに動かないというのが現実である。その原因はいろいろあると思われるが，最大の理由は登録の煩わしさであり，もう一つは登録する論文が雑誌に印刷された最終形態のものではなく，印刷する直前の「著者最終稿」であることである。

前者については，ただでさえ忙しい研究者が，たとえ有料とはいえすでにインターネットでアクセスが可能になっている論文を，無料アクセスできるようにするためにわざわざもうひとつ登録するという「無償のサービス」作業に意欲がわかないという気持ちはわからないでもない。しかし，最近の調査によると無料でアクセスできる状態になっている論文は，そうでないものよりも引用されるチャンスが大幅に上がるという調査があるので，これは単なる奉仕とは異なり，研究者にもメリットが期待できるものであることが理解されるだろう。

一方，学問分野によっては，印刷された論文（例えば，分類学の記載論文）を決定稿として，それ以外のバージョンの存在を嫌うケースがある。この場合はすぐには対応が難しいかもしれないが，学界として新しい時代の学術情報のあり方への新しい対応を迫られる時代が来ていると考え，積極的に対応を図るべきではなかろうか。

歴史遺産としての紀要

世界的規模で流通している学術雑誌のほかに，最近では減りつつあるものの，大学紀要という学術出版の形式がある。研究の国際的評価が重要視されるようになってきて，自然科学系では風前の灯火ともいえる状況に追い込まれている大学の紀要であるが，かつては日本の科学の国際的評価が低かったことや，研究業界の国内主義などの理由から，発表の後に歴史的と評価されることになる世界的に重要な論文が紀要に掲載されることがしばしばあった。例えば，私がかつて所属していた理学部動物学教室にも紀要があって，大学院生が単著で論文を投稿するなど，ひとりで論文を仕上げる機会を実践できる貴重な研究者養成の場としても機能していた。その「北大理学部紀要（動物学）」を研究成果の発表の場として積極的に利用したひとりが，社会性ハチ学の権威として世界的に有名な故坂上昭一である。北大広報誌リテラポプリ（2005年冬号，Vol. 21）に掲載された坂上の弟子のひとりである現理学部教授・片倉晴雄の文章を引用する。

> こうした成果の公表に大きな役割を果たしたのが当時の北大理学部紀要（動物学）（現在は休刊中）をはじめとする大学紀要

だった。実際，上記「昆虫の社会」に引用された25編のうちの９編は北大理学部紀要に発表されている。当時年２回発行されていた紀要を，ページ制限なしに研究成果を発表できる場として坂上は大いに活用したのだった。なにかというとジャーナルのインパクトファクターを気にする現代の風潮を聞いたら坂上は嗤い飛ばすに違いない。評価を決めるのは雑誌の格ではなくて論文自体の内容だ，といいきれるだけの実績が彼にはあった。

このように世界的にも貴重な学術情報が蓄積されている紀要を，北大の宝として登録していくこともHUSCAPの重要な役割となるだろう。さらに，HUSCAPの中で，非常にアクセスの多いことが示された教育資料の保存・公開も機関リポジトリの役割として注目すべきものだろう。

おわりに ～ 機関リポジトリと図書館の未来

機関リポジトリが動き出した図書館を見ていると，図書館の未来が見えてくるような気がする。今までの大学図書館の主な役割は，世界から学術情報を集め蓄積し，学内における研究・教育活動に資することだった。一方，機関リポジトリで行っていることは，北大からの学術・教育情報の発信である。研究者はともすれば一匹狼として活動することが多いので，特定の大学や研究機関に強い帰属意識を持たないことも多い。しかし，大学という存在は単なる個人研究者の寄せ集めではなく，全体としてある種のまとまりを持った存在である。HUSCAPという形で，北海道大学における過去と現在の学術情報・教育資料が，縦横に解析可能なデータベースとしてまとめあげられることで，今まで想像することすらできなかった北海道大学の研究・教育活動の全容が可視化されてくるのを見るのは感動的ですらある。北海道大学の研究・教育の過去と現在そして未来を記録・蓄積し続け，リアルタイムで公開していくことのできるHUSCAPは，北海道大学の資産として，顔として，さらに大学と世界をつなぐゲートウェイとしてますます発展していくだろう。そして，それこそが未来の図書館の重要な機能のひとつなのだと思う。

楡　　蔭（北大図書館報）

北分館改修に関する学生アンケート（報告）

１．北分館改修

北分館は老朽化が進み，閲覧環境の改善が強く望まれてきました。

昨年度，総長重点配分経費（「キャンパスの充実に関する事業」）に認めていただき，１階から３階の閲覧室等の改修，照明器具の一新，１階と３階のトイレの改修を行いました。１階にロビー風の16席の自由閲覧コーナーを設け，３階には閲覧机を８席増やしました。また，換気設備の改修により，長年悩まされてきた大きな通風音が解消され，閲覧室全体が静かで，明るい落ち着いた雰囲気に生まれ変わりました。

２．北分館改修に関するアンケートの実施

このアンケート調査は，今回の改修を利用者がどのように受け止めているか，更に，今後何が必要かを把握することを目的としました。

そのために，設問も改修後の率直な感想を求めるものを２項目，設備の満足度を求めるものを３項目とし，その他に，ご意見，ご要望を書いていただく欄を設け，５月25日（木）の利用者が多い午後２時頃から，改修前との比較のため２年生以上の学部学生・院生100名を対象として行い，92名の方から回答を得ました。

３．平成18年　附属図書館北分館改修についてのアンケート結果

１．新しくなって…

ⅰ．すごくいいと思う …… 14人（15％）
ⅱ．なかなかいいと思う …… 66人（72％）
ⅲ．特にいいとは思わない …… 9人（10％）
ⅳ．その他 …… 「まだよくわからない」，「変わった感じがなかった」

２．きれいになって，よかったと思うのは…（複数回答可）

ⅰ．１，２，３階の壁・床・天井 …… 49人（53％）
ⅱ．１階の新しいスペース …… 27人（29％）
ⅲ．２階の本棚 …… 24人（26％）
ⅳ．３階のトイレ …… 22人（24％）
ⅴ．空調の音が小さくなった …… 25人（27％）
ⅵ．その他 …… 「特に気付かなかった」，「全体的に明るくなったこと」，「明るくなった」，「なし」

３．北分館の机の数は十分ですか？

ⅰ．十分だと思う …… 36人（39％）
ⅱ．増やしたほうがよい …… 40人（43％）
ⅲ．その他 …… 「（２Ｆ）」，「席とりがいなければ」，「ソファーの数が増えた方がよい」，「（少しだけ）」

４．館内の案内表示は見やすいですか？

ⅰ．見やすい …… 57人（62％）
ⅱ．見にくい，どこに行けばいいのかわかりづらい … 15人（16％）
ⅲ．その他 …… 「慣れれば良い」，「見やすいと思う，慣れているから」，「ちょうどよい」，「わからない（２名）」，「まあまあ」，「知らない」

５．照明は適度な明るさですか？

ⅰ．ちょうどよい …… 67人（73％）

ⅱ．より明るいほうがよい …… 10人（11％）

ⅲ．より暗いほうがよい …… 0人

ⅳ．その他 …… 「４階をもう少し明るくして下さい」

結果について

回答数92のうち，新しくなって「すごくいいと思う」「なかなかいいと思う」が80人（87％）に達したことは環境整備の重要性を表しています。

この中で，机の数について40人（43％）の方が増やしたほうがよいと回答しています。図書資料の充実と合わせ，閲覧机の数を含めた快適な閲覧環境の整備を図って行きたいと考えています。

４．その他ご意見・ご要望など

意見，要望など自由に記入する欄を設けたところ，多くのご意見などが寄せられました。これらを次の１～５に分類し，ご意見と北分館の対応をお知らせします。

１）図書館資料に関すること

①「LD，DVD，VHSをもうちょっと分類別にしたほうがよいと思う」

「回答」 映像資料は図書と同じ分類で配列し，劇映画資料は日本映画，外国映画に分け，タイトルのアルファベット順に配列しております。制作国別，ジャンル別配列はしておりませんが，映像資料の検索は附属図書館ホームページの「映像資料検索」で行うことが出来ます。この検索で劇映画資料はジャンル，制作国，監督，出演者などタイトルにない言葉でも探すことが出来ますのでご利用下さい。

②「話題の図書などたくさん入れてほしい」

③「かんたんな参考書がもっとあるとよいと思った」

「回答」②③ 北分館では，教員の推薦，書評，新刊案内等を参考にした選定，また，利用者である学生からの購入希望により図書を購入し閲覧に供しております。購入希望は，北分館に申込用紙を用意しておりますが，図書館のホームページからも「図書リクエスト」を行えますので，多くの推薦をお願いいたします。

２）貸出制限に関すること

①「２週間や５冊という制限をゆるくしてほしい」

「回答」 多くの利用者の利用を確保するために，この期間，冊数を決めましたのでご理解下さい。

②「多くの人が利用する教科書などは貸出禁止もしくは貸出期間を短くしてほしい」

「回答」 講義で使用する図書など，利用の多い図書は，２冊以上購入して利用していただいております。貸出期間につきましては検討します。

３）図書館利用のマナーに関すること

①「図書館利用のマナーの低下は改善のしようがないと思うが，やはり飲食，騒音などについては，より何らかの対策を出してほしい」

②「４階グループ学習室を別のところに移動させてほしい。うるさいので」

③「グループ学習室でさわいでいる人やおしゃべりをしている人を注意してほしい」

④「私語が目立つので図書館員の方に注意してもらいたい」

⑤「４Ｆのミーティングルームがうるさかったので，何か対策をお願いします」

⑥「入口のあたりで話している人達がうるさい（図書館のスタッフ含めて）特に閉館近くなってくると」

「回答」 利用のマナーについては，他の利用者に迷惑をかけている時，恐れがある場合，その都度注意を促し，利用者にご協力いただいておりますが，マナー順守の掲示や図書館職員による巡回などの対策を行います。

図書館スタッフにつきましては，注意するよう徹底しました。

4）パソコンに関すること

①「DVD 等がある部屋の PC の台数を増してほしい」
②「パソコン室のパソコンの数が増えると好ましい」
③「昨年のように制限なくインターネット接続を可能に」
④「パソコンを増やしてほしい」
⑤「パソコンで USB メモリを使えるものと使えないものをはっきりしてほしいです。出来れば全部使用可にしてほしいですが」

「回答」 平成18年 4 月から附属図書館で使用できるパソコンの利用方法が変わりました。これは，昨年12月に「「北海道大学セキュリティ・ポリシー」が制定され，その中で「設置者は，使用者を特定できない情報機器の利用を防止するよう努めなければならない」と定められたことを受けて，館内のパソコン，LAN 接続サービスについては，「ID による認証」もしくは「記名による認証体制」をとることとしたものですので，ご理解とご協力をお願いいたします。

北分館では 2 階にパソコン 2 台，情報コンセント（1 口），4 階にパソコン 6 台（個人閲覧ブース），情報コンセント（84口）を設置しております。

パソコンは申込み制，情報コンセントはすべて情報処理教育パソコン用の ID，パスワードが必要となっております。

なお，現在は閲覧室にあるパソコン全て USB メモリが使用できますのご利用下さい。

5）施設・設備に関すること

①「冬二階の廊下のほうのドアがひらきっぱなしで，入口付近が寒かった。（特に足元）」
②「空調が冬は暑すぎ，夏は寒すぎたりすることがある」
③「アツい」
④「空調の音が静かになって，集中できる様になりました。3 階のレーン文庫が閲覧できるようになり便利になりました」
⑤「トイレがキレイでうれしいです」
⑥「机は増やしてほしいです!!試験期間中に机が埋まってて困るときがあります」
⑦「冷房がさむいことがあるので，少し調節しやすくしてほしい」
⑧「素晴らしいです」
⑨「温度（室内）が高いことが多い」
⑩「４Ｆの机にライトがあればさらによい」

「回答」 換気及び暖房設備が改修されましたので，より適切に温度調整を行い，快適な閲覧環境の維持を図ります。

机を増やして欲しいとの希望は，アンケートの中でも多くありました。今後の課題と受けとめさせていただきますが，カバン，服等の荷物類を空いている机に置く状況がまま見うけられますので，混んでいる場合は特に，机を無駄に占拠することのないよう，ご協力をお願いします。

お知らせ

来　館　日　誌

（平成18年７月～10月）

No.	来　館　者	来館日	時　間	人数	備　考
1	福島県立図書館職員	７月20日(木)	10:40-11:40	1	北方資料室見学
2	人間文化研究機構・歴史民族博物館民博のプロジェクト「移民史の比較研究」班	７月25日(火)	9:00-12:00	9	北方資料室見学
3	斜里町立斜里中学校生徒	９月６日(水)	11:30-11:45	6	
4	北海道函館東高等学校生徒	９月７日(木)	14:00-16:00	241	
5	「無教会全国集会2006・さっぽろ」参加者	９月11日(月)	11:00-12:00	80	北方資料室・貴重資料室見学
6	札幌大学文化学部学生および引率教員	10月31日(火)	14:30-15:30	10	北方資料室見学
	計			347	

北方資料室を見学する札幌大学学生

オープンユニバーシティが実施されました

平成18年７月30日（日）に札幌キャンパスにおいて「平成18年度北海道大学オープンユニバーシティ」が実施されました。附属図書館では，「大学の図書館をみてみよう！」と題し，館内ツアーをしながら図書館で実施しているいろいろなサービスについて説明をしました。また，北方資料室所蔵の蝦夷地古地図やアイヌ風俗画，北大の沿革資料などの貴重な資料の見学をしました。

◆ 内　容

・館内ツアー（開架閲覧室→書庫→北方資料室→参考閲覧室）

・北大蔵書検索のデモンストレーションと体験

◆ 時　間

１回目　11：00－11：45

２回目　13：00－13：45

３回目　15：00－15：45

◆ 配付資料

・図書館利用案内　－はじめての方へ－

・ OPAC の使い方

◆ 参加者数

38名（各回合計）

北海道大学附属図書館講演会を開催しました

平成18年10月６日（金）北海道大学附属図書館大会議室において，道内国公私立大学等の図書館職員を対象に平成18年度北海道大学附属図書館講演会が開催され，本学から44名，道内28機関から44名の参加がありました。

前半は早稲田大学図書館司書の仁上幸治氏による「図書館広報戦略の新段階～外部委託できない専門性の核をどう訴求するか～」と題して基調講演がおこなわれました。冒頭，映像や音声効果を取り入れた演出による新入生向け図書館オリエンテーション（早稲田大学図書館の例）で始まり，「驚かす，対話形式，旬の話題，ワクワク感で終わる」オリエンテーションの実演を披露していただきました。続いて，図書館界の広報活動の現状，問題点や図書館員のイメージ分析があり，利用者から求められる新しい図書館員像や専門性について，また大学図書館の現状を変えていくための手段としての広報について具体的な助言や提言をいただき，業務改革，意識改革を迫られた講演内容でした。

後半は「図書館の広報活動」をテーマにしたパネル・ディスカッションがおこなわれました。

まず，３人のパネラーから本学附属図書館職員による広報活動の実践例が紹介されました。

佐藤清一情報サービス課長からは，附属図書館の図書館広報の現状と課題について報告があり，この中で教員との連携強化や図書館員が夢をスケッチし，実現に向けた方向性を示していくことの重要性について話されました。

野中雄司情報管理課図書受入係員からは「本は脳を育てる～北大教員による新入生への推薦図書」と題して，教員が選んだ図書を推薦コメントつきで見ることができるWebサイト企画の紹介およびその狙いについて報告がありました。川村路代情報システム課目録情報第一係員からは「機関リポジトリ：HUSCAPの広報」と題して，学内で生産された学術研究成果を電子媒体で収集・保存し，インターネットを介して公開する新しいサービスである「HUSCAP」(北海道大学学術成果コレクション)のコンテンツ収集作戦について，広報活動の視点から報告がありました。

これら実践例の発表に続いて，会場参加者との質疑応答や意見交換がおこなわれ，盛況のうちに終了しました。

また，講演会場には事例報告で紹介したサービスを学内構成員に広報するために作成，配布したポスターやリーフレット，マスコット等が展示され，参加者の関心を集めました。

仁上幸治氏講演

パネル・ディスカッション

楡　　蔭（北大図書館報）

インターンシップ

平成18年度附属図書館インターンシップ（図書館実習）について

附属図書館では，平成12年度から他大学からの図書館実習の要請を受けてインターンシップ（図書館実習）を実施しております。平成16年度からは，すでに実施していた筑波大学と武蔵女子短期大学に，あらたに藤女子大学が加わりました。平成18年度にはこれら３大学で計７名の実習生を受け入れ実施しました。

図書館実習は，実際の図書館業務を体験してもらい職業意識を高めていただくことを目的とし，短期間（７日間から15日間）であってもほぼ全業務を体験できるよう実習プログラムを作成しております。附属図書館（本館・北分館）の各係が図書館資料の処理の流れに沿い連携して実習を行っています。実習を終えた学生からは「講義で学べない図書館業務や貴重な経験ができる」との感想が多く寄せられました。

なお，筑波大学の実習生からインターンシップの感想をお寄せいただきましたので次ページに掲載しました。

図書館概要の説明を受ける藤女子大学，
北海道武蔵女子短期大学の図書館実習生

北方資料室で資料整理をしている
筑波大学図書館実習生

平成18年度の実施状況

大　学　名	人　数	日　数	期　　間
筑波大学			
図書館情報専門学群	１人	15日間	７月７日～７月28日
北海道武蔵女子短期大学			
教養学科図書館司書課程	４人	７日間	７月31日～８月８日
藤女子大学　文学部（文化総合学科／日本語・日本文学科）			
図書館情報学課程	２人	７日間	７月31日～８月８日

年度ごとの受入人数

	筑波大学	北海道武蔵女子短期大学	藤女子大学	合　　計
平成12年度	2			2
平成13年度	3	6		9
平成14年度	0	6		6
平成15年度	2	5		7
平成16年度	1	6	3	10
平成17年度	2	3	2	7
平成18年度	1	4	2	7
計	11	30	7	48

図書館情報学実習を終えて

筑波大学図書館情報専門学群３年　**田　原　咲　子**

図書館情報学実習に臨むにあたり，図書館の仕事とはどのようなものなのかを，自分なりに考えていました。利用者として図書館で見ることができる仕事や，講義で知ったことなどを思い浮かべ，しかし，具体的なことは何一つ想像もつかないまま，緊張と期待を持ち北海道大学に足を踏み入れたことを，今でもよく覚えています。始まる前にはとても長く思えた３週間の実習は，私のそんな想像よりもはるかに様々な知識と経験を与えてくださり，毎日多くの方々や仕事に触れているうちに，あっという間に過ぎてしまいました。この３週間は私にとって大きな意味を持ち，忘れることのできないものになったと心から思います。

まず前半に行った，発注や受け入れ，目録作業，分類作業，装備などの実習では，図書館の根底を支える間接サービスの重要性を実感することができました。利用者としては知ることのできない仕事に接すること，講義で聞いたシステムを実際に使うことなど，あらゆる発見と驚きが連続する毎日でした。さらに今後も利用されるデータや図書，雑誌を扱わせていただいたことで，働くという緊張感や責任を強く感じることができました。そしてなにより，実習そのものだけでなく職員の皆様を見て，以前は間接サービスとは，利用者に全く触れることのない事務的な仕事だと考えておりましたが，すべての仕事が常に利用者を考えて動かされていること，利用者だけでなく内外の多くの方々と関わっており，人と人との繋がりが大変重要であると知ることができました。また，人の繋がりは，相互貸借や文献複写サービスの実習でも強く感じました。多くの図書館が思いやりや気遣いを持ち，協力し合っているということを実感できて嬉しく思います。

利用者と直に接し資料を提供するカウンター業務でも，資料の移動が想像以上の重労働であることと，貸出，返却，配架の他にも多くの業務があることを知り，驚きました。それを平行して処理することの大変さは，実際にカウンターの内側に入ってみて初めてわかることでした。実習中，利用者と接する際，緊張のあまり上手く説明できなかったことや，わからない質問を受け対応に困ってしまったこともありましたが，そのたびに，職員の方が素晴らしい対応をしてくださり，感謝とともに憧れの気持ちを持ちました。

今回の実習の中でも，参考調査については大変興味を持っていました。大学で講義，演習を受け，参考調査がいかに重要であるかを聞いていたからです。実際に過去の事例を使って調査をさせていただきましたが，演習とは比べ物にならないほどの難しさがありました。職員の方が知識と経験とスキルを持って調査なさるのを見て，その専門性を強く感じ，大学の講義内容に深く頷くことができました。また，模擬ライブラリーセミナーを，新入生に対し北海道大学 OPAC の利用方法を教えるという想定で，行いました。事前の準備が足りなく，複数の人の前で話すことが苦手なこともあり，上手く行ったとは言えませんでしたが，このことは大きな経験となりました。

北方資料室では最終日まで実習をさせていただきました。北海道大学ならではの特殊で貴重な資料は北海道出身の私にとって，大変印象的なものでした。資料の扱いには緊張しましたがそれらに見て触れることで，北海道の歴史や文化に対して今までよりも強い興味を抱きました。

幅広く図書館で行われる仕事に参加でき，仕事の分担や流れを知ることができました。様々な発見

と経験を与えてくださった職員の方々の丁寧で優しいご指導には心から感謝いたします。職員の方々とお話をするたび，本当に熱意とパワーを感じました。これは私の中に存在した「図書館で働く」というイメージを大きく変容させるものでした。それと同時に，私自身がステレオタイプのイメージを抱き，そのことに漠然とした不安を抱いていたと気が付きました。そして，その不安が払拭されたことが，実習を通して何より嬉しかった発見です。この多くの経験を，今後の勉強や就職活動，そして将来に生かしていきたいと思っています。

資料紹介

平成18年度特別図書購入費による購入資料

特別図書購入費は，人文社会科学系の大学院における教育研究に必要な基本的図書資料を整備充実することを目的とした経費です。文学・教育学・法学・経済学・国際広報メディア各研究科，公共政策大学院に資料の選定をお願いした結果，今年度の購入資料が決定しましたのでお知らせします。ご協力まことに有難うございました。これらの資料は，納品され，整理が済み次第，順次，本館の書庫に配置します。

●朝鮮及満州（覆刻版） 8巻～24巻 （皓星社）

朝鮮及満州は在朝日本人により編集された総合雑誌で，朝鮮・満州・台湾に関わる教育・文化・政治・経済など極めて豊富な内容となっている。執筆者は在朝日本人のみならず，日本国内の政治家・教育者・経済学者など多岐に渡っている。

植民地に対する考え方，政策の模索，植民地の社会や文化及びそこにおける日本人の暮らしについて，総合的に知ることが出来る雑誌である。

● British Archaeological Reports: International series 2003-2006 （Hardian）

世界各地の調査報告及び学位論文を刊行しているのが本シリーズである。本シリーズには定期的に開催される国際会議の報告をも収録されたナンバーを含み，考古学界において広く世界的情報を理解するための必読な基本文献として認識されている。今回はとりわけ先史考古学領域及び理論的集成を行なった2003年から2006年に出版された本学未所蔵のものを抽出した。

● Encyclopedia of popular music, 4th ed. 10vols. （Oxford U.P.）

1990年に初版が刊行された本事典は，1900年から現代に及ぶロック・ポップス・ジャズ・フォーク・メタル・ヒップホップといった大衆音楽に関するアーティスト等の伝記百科事典である。各アーティストにとって重要な日付や場所，ディスコグラフィーなどを収録し，名前や曲名の索引やアーティスト・主題ごとの参考文献も収録されている。８年ぶりに改訂された第４版は全10巻となり，前版の既存項目の大幅な増補・アップデートはもとより，24,000の伝記項目と10,000の個別アルバムの批評・評価を収録し，内容が約50％増えてさらに充実したものとなった。

● Child Maltreatment.（児童虐待）Reprint ed. Vol. 1-8 （APSAC）

APSAC は心理学者・ケースワーカー・医師・看護師・裁判官・法律専門家などの公共・民間の各分野からの専門メンバーが参加する学際的組織としてのアメリカ最大の学会である。本誌はこのような様々な分野のグループの人々に対しその共通の目的である児童虐待・いじめ問題対策のために，最新の資料提供・問題提起を行っている。

●知的・身体障害者問題資料集成 戦前編 13-16巻（第４回配本分）（不二出版）

本資料集成は，学習障害（LD），注意欠陥／多動性障害（ADHD），高機能自閉症なども含む知的

発達障害，そして視覚障害，肢体不自由などの身体障害を中心として対象を虚弱児童・傷痍軍人にまで広げて，「障害」に関する資料を収集復刻したものである。第13巻～第16巻には1939年～1945年の資料を収める。

●在日朝鮮人関係資料集成　戦後編　3-5，8-10巻（第２回・４回配本分）（不二出版）

本資料集成は，在日朝鮮人史研究の先駆者である朴慶植氏個人が収集・所蔵していた貴重資料を復刻したものである。日本の敗戦直後の在日朝鮮人の生活および運動の実態と，日本政府や日本国民の在日朝鮮人に対する対応等に関わる資料集成である。

●教育基本法問題文献資料集成　第一期　全10巻＋別冊１　（日本図書センター）

第一期には教育基本法の制定資料（帝国議会議事録）をはじめ，教育基本法（憲法を含む）の解釈と学習に関する文献，教育基本法の理念・目的の中での重要な人間像，愛国心，平和に関する教育文献と教育基本法の下での新しい教育の構想と体制づくりの出発点に関する文献が収録されている。

●愛護（覆刻版）　全４巻＋別冊１　（不二出版）

知的障害者関係福祉の事業者が「施設」という空間で展開してきた実践は1936年に創刊された「愛護」誌を通して相互に研鑽と実践を創り出してきた。1936年までの時期は知的障害関係福祉の創成期であった。本誌は日本の知的障害児教育と養護・福祉の歩みの全てを見ることが出来る。

●駐韓日本公使館記録　活字本（国訳・原本）目次・索引集　全28巻　（高麗書林）

駐韓日本公使館記録は近代史の第一級史料である。影印本版（写真版）全40巻は北大に所蔵しているが，写真であるために細かい部分が判別できない場合がある。今回の活字版は韓国側で翻訳したものであるが，影印本との併用により一層の研究成果が得られる。

●大阪銀行通信録　明治期（覆刻版）1-15巻（第１回～３回配本）（不二出版）

大阪銀行通信録は明治23年３月に創刊し，昭和17年３月の金融団体統制令により廃刊を余儀なくされるまでの間，大阪同盟銀行集会所（のちに大阪銀行集会所に改組，現在の社団法人大阪銀行協会の前身）より発行されていた機関紙である。当時の大阪を中心とする関西諸地域並びに西日本各地における近代金融経済の動向を知る上での第一級の重要史料である。

● Critical Studies in Economic Institutions Series. Vol. 1-4, 7-8　(Edgar)

コースとノースがノーベル賞を受賞した1990年以降，経済学において制度が重要な役割を果たすことが広く認識されてきている。本シリーズは，ソーシャル・キャピタル，信頼，知識，学習，ルーティン，ネットワークなどの制度に関する重要な課題について，全８冊の構成で網羅する論文集である。

● Commentaire Theorique et Pratique du Code Civil. Vol. 1-15, 1892-1903 Reprint Bound.　(Schmidt Periodicals)

本書は，19世紀末に刊行されたフランス民法全体に関する注釈書である。著者の Huc は後期注釈学派最後の泰斗であり，19世紀末から20世紀初めに登場する科学学派と対比される。このため，本書

はフランス民法の研究に不可欠の文献であるが，著者が著名な比較法学者であることから19世紀ヨーロッパ法の研究にとっても貴重な文献である。また，著者の比較法研究は日本民法の編纂の際に司法省「伊仏民法比較論評」(明治15年刊）として翻訳され参照されているから本注釈書は日本民法編纂の基礎を調査するためにも有益な資料である。

● Dispute Settlement Reports. 2000(vol. 7-11), 2001(vol. 1-3), 2002 （Cambridge U.P.）

1995年に設立された世界貿易機構のなかの貿易紛争解決のための準司法組織である小委員会（パネル）とその上級委員会が提出して採択された報告書（国内裁判所の判決に準じるもの）を年次的に登載した国際経済法の重要な文献。物品，サービス，知的財産と広範囲にわたる貿易紛争を対象とするもので，日欧米の重要な紛争のみならず，インド，ブラジルなどの開発途上国や，中国や台湾などの新加盟国が関連する貿易紛争に対する法的判断が示されている。現在，WTOのラウンド交渉は行き詰まっているが，既に合意されているWTOルールに係る紛争は上記の準司法組織のもとで粛々と判断が蓄積され，世界貿易の法的な規律を知る貴重な文献となっている。

● Development: Critical Concepts in the Social Sciences.（Critical Concepts）6vols. 2000 （Routledge）

本シリーズは開発学をめぐる各時代の重要文献を編集したものである。引用率の高い文献が集められており，開発経済学，国際協力論などの公共政策大学院の教育・研究に不可欠な文献である。

● Health Care Systems: Major Themes in Health and Social Welfare. 4vols set. 2005 （Routledge）

本シリーズはヘルスケア制度－健康と社会福祉関連の主題論文を集めたものである。

● Studies in Fiscal Federalism and State-Local Finance Series and State-Local Finance Series. 14vols. （Edward Elgar Pub）

本書は，カールトン大学のStanley L. Winer教授のPolitical Economy in Federal States: Selected Essays of Stanley L. Winerなどをはじめ，財政学を中心に政治経済学関連の文献も含むシリーズである。これらはいずれも，公共政策学の基礎文献である。

● Communication Yearbook. Vol. 1-4, 6-21, 24, 27-30 （Sage）

International Communication Association（国際コミュニケーション学会）が毎年テーマを決めて編集するもので，コミュニケーション研究のすべての分野における最新の研究状況を知ることが出来る優れた資料である。ICAは1950年に設立され，現在では3400人以上の研究者が集まる国際学会で，コミュニケーション研究の分野を代表する国際学会の一つに数えられるものであり，その研究成果を年度毎にまとめたCommunication Yearbookは，コミュニケーションに関する研究を行なう研究者・学生にとって基本参考書ともいえる存在である。

楡　　蔭（北大図書館報）

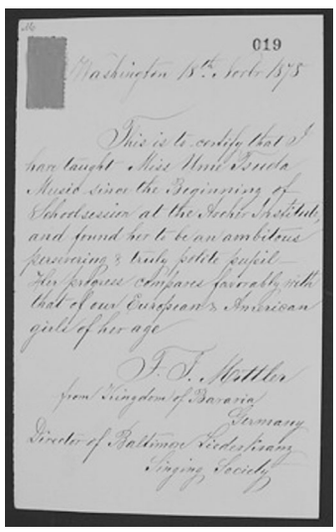
（シリーズ．２）

附属図書館北方資料室紹介

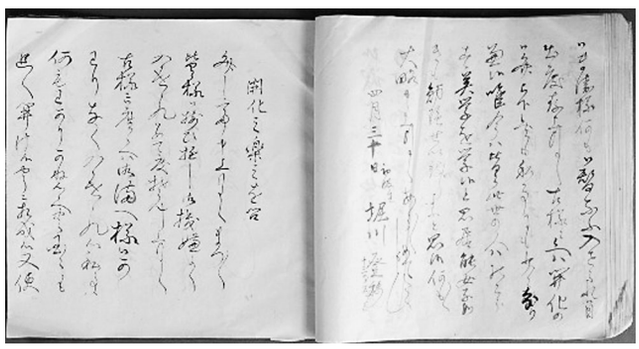
「津田梅子も北大に関係があったんですか？」――「開化の楽しみを問う」ある女生徒の作文

「津田梅の音楽成績通知」が北大沿革資料展示室に展示されているので，よくこのように質問されますが，津田梅子は北大に関係してはおりません。ただし梅子ら女子５名は，明治４年（1871）開拓使の命によって米国に留学したため，開拓使文書のひとつとして展示しているのです。今回ご紹介するのは，その右隣に展示している作文です。流麗な仮名交じり文で書かれたこの作文は，明治５年（1872）東京に開校した開拓使仮学校に併設された女学校に学んだ女生徒の作品です。その後明治８年（1875），開拓使は学校を札幌に移し，札幌学校を開校します。同年女学校も開校し，女子生徒35名が入学します。ところがわずか８ヶ月後，女学校は廃校となってしまいます。新しい教育を受けることを期待されて梅子らと同じように海を渡った若い女性が，一方では大きな足跡を残し，他方ではその後親元に帰り，無名のまま生涯を閉じたのです。翌９年，札幌学校は札幌農学校として新に開校し，多くの人材を育てました。女学校がもし存続していれば，同じようにすぐれた女性を育成したのではないでしょうか。北大が初めて女子の入学を許可するのは1918年，開学から40年以上たってからのことです。

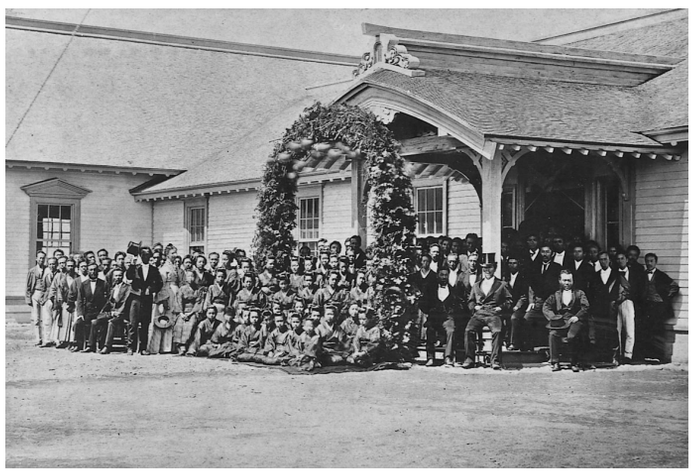
（「津田梅の音楽成績通知」には，Miss Ume Tsuda と記載されておりますが本名は『津田梅子』です。）



「津田梅の音楽成績通知」
明治11年（1878年）



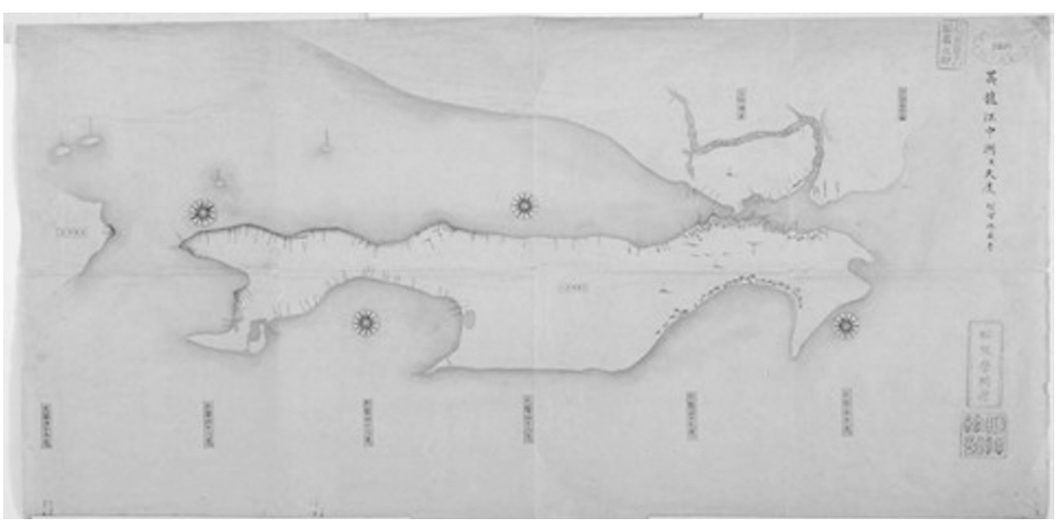
「開化の楽しみを問う」
明治７年（1874年）



女学校開校式
明治８年（1875年）

だから模写図はおもしろい――黒竜江中州并天度（コクリュウコウナカスナラビニテンド）

一見こじんまりした樺太の絵図ですが，実に多くのメッセージが込められているという意味では，大変おもしろい絵図といえるでしょう。この絵図は探検家間宮林蔵が大陸を踏査した時に著したものです。それまで樺太の地図は，大陸と陸続き（半島）であるものと，大陸から離れた島であるものとに分かれて描かれていました。しかし彼の踏査で，樺太が実は島であることが初めて日本に紹介されたのです。但し，北大所蔵のこの絵図は，原図ではありません。歴史家蘆田伊人（コレト）氏所蔵の絵図（模写）をさらに模写したもので，原図は最上徳内によってシーボルトの手に渡り，現在はライデン図書館にあります。この絵図を含め，蘆田氏が収集した資料は，残念ながら戦災などで多くを消失し，『黒竜江中州並天度』も例外ではなかったようです。この模写図をよく見ると，右端に「明教館記」「松阪學問所」と蔵書印が押してあります。これにより，原図の模写図が紀州藩徳川家に献上され，藩校明教館の所蔵となった後，紀州藩領にある松阪学問所に移ったことがわかります。その後明治期になって藩校が廃止され，この絵図は蘆田氏のコレクションに加わったようです。こうしてみると模写図は，原図以上に多くのことを語りかけてくれる貴重な史料といえるかもしれません。



文化７年（1810年）頃

教員著作寄贈図書

（平成18年６月23日～10月20日）

寄贈者	所属部局	寄贈図書	所在
岩渕　和也	遺伝子病制御研究所	The immuno-regulatory role of natural killer T cells in inflammatory disease / editor J.L. Croxford ; chief editorial consultant T. Yamamura. – Trivandrum, India : Research Signpost, 2005	本館・開架閲覧室
長尾　輝彦	文学研究科	Nitobe Inazo : from Bushido to the League of Nations / edited by Teruhiko Nagao. – Graduate School of Letters, Hokkaido University, 2006.	分館・開架一般図書
藤森　信吉	スラブ研究センター	ヨーロッパの東方拡大 / 羽場久美子，小森田秋夫，田中素香編．－岩波書店，2006.6．	本館・開架閲覧室
神保　秀一	理学研究院	偏微分方程式入門 / 神保秀一著．－共立出版，2006.8	本館・開架閲覧室 分館･開架一般図書
大谷　文章	触媒化学研究センター	光科学研究の最前線 / 「光化学研究の最前線」編集委員会編，強光子場科学研究懇談会発行，2005.8	本館・開架閲覧室 分館・開架一般図書
寺田　龍男	言語文化部	“Von Mythen und Mären” : Mittelalterliche Kulturgeschichte im Spiegel einer Wissenschaftler-Biographie : Festschrift für Otfrid Ehrismann zum 65. Geburtstag / Herausgegeben von Gudrun Marci-Boehncke und Jörg Riecke. – Hildesheim : Georg Olms, 2006．	本館・開架閲覧室
石川　健三	理学研究院	場の量子力学 / 石川健三著．－培風館，2006.7.－（物理学基礎シリーズ；9）．	本館・開架閲覧室 分館・開架一般図書

ご恵贈誠にありがとうございました。
図書館では本学教員が執筆した図書資料を収集しています。新たに本を出版される際には，是非ご恵贈くださるようご協力お願い致します。また，北京大学図書館との相互交流および協力に関する覚書の締結に基づき，北京大学との交換用にもう１冊分，ご寄贈いただけますようご協力をお願い致します。とりまとめは，附属図書館で行います。

学術成果コレクション（HUSCAP）寄贈文献

（平成18年６月23日～10月20日）

187名の先生から，356件のご著作論文等を寄贈していただきました。

HUSCAP ：北海道大学学術成果コレクションにて保存・公開しています。

なお，研究紀要等電子ジャーナル化支援プロジェクトにより，この期間，新たに５研究科等の６タイトル，695件の紀要文献がHUSCAP上で公開されています。

HUSCAPについて詳しくは， http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/ をごらんください。

ご恵贈誠にありがとうございました。図書館では本学教員が執筆した著作の原稿ファイルを収集し，HUSCAPにて保存・公開しています。新たに論文等を発表された際には，是非ご恵贈くださるようご協力お願い致します。

会議（平成18年７月15日～11月17日）

【学　内】

◎学術成果発信小委員会

〇平成18年度第２回〈７月28日(金)〉

〇平成18年度第３回〈11月８日(水)〉

【学　外】

◎国立大学図書館協会

〇秋季理事会〈10月26日(木)〉(東北大学)

◎第80次国立七大学附属図書館協議会及び第５回国立七大学附属図書館長並びに第39回国立七大学附属図書館事務部課長会議〈９月28日(木)〉(大阪大学)

◎北海道地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議〈11月17日(金)〉(北海道大学)

◎北海道地区大学図書館協議会

〇第49回図書館職員研究集会〈８月18日(金)〉(札幌国際大学)

〇第56回総会〈９月１日(金)〉(東京理科大学長万部校舎)

〇図書館職員研究集会企画委員会　第４回〈10月20日(金)〉(北海道大学)

◎北海道図書館連絡会議

〇図書館年鑑2007北海道ブロック協力者会議〈11月２日(木)〉(道立図書館)

◎電子ジャーナルタスク・フォース北海道地区説明会〈７月28日(金)〉(北海道大学)

各委員会等委員変更について

任期満了等により以下の委員会委員の変更がありました。

図書館委員会

所　　属	職名	氏　　名	電話	任　　期	備　　考
北海道大学病院	教　授	福　田　　諭	5955	18．9.16～20．9.15	
高等教育機能開発総合センター	教　授	木　村　　純	5286	18．9.18～20．9.17	
公共政策学連携研究部	教　授	石　井　吉　春	4718	18.10．1～19．3.31	

北分館委員会

所　　属	職名	氏　　名	電話	任　　期	備　　考
高等教育機能開発総合センター	教　授	木　村　　純	5286	18．9.18～20．9.17	

学術研究コンテンツ小委員会

所　　属	職名	氏　　名	電話	任　　期	備　　考
国際広報メディア研究科	教　授	石　橋　道　大	5413	18．9.18～20．3.31	
北海道大学病院	教　授	福　田　　諭	5955	18．9.16～20．9.15	

学術成果発信小委員会

所　　属	職名	氏　　名	電話	任　　期	備　　考
学術国際部研究協力課	課　長	佐　野　　護	2161	18．8．1～	

点検評価小委員会

所　　属	職名	氏　　名	電話	任　　期	備　　考
文学研究科	教　授	櫻　井　義　秀	4195	18.10．1～19．3.31	

人　事　往　来

【平成18年10月１日付発令】

［転入・配置換］

阿　部　裕　幸　附属図書館情報管理課会計係長（苫小牧工業高等専門学校会計課用度係長）

泉　澤　芳　史　情報基盤センター会計係長（附属図書館情報管理課会計係長）

東　　朋　子　附属図書館情報サービス課相互利用係（工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課図書閲覧係）

小　坂　麻衣子　工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課図書閲覧係（附属図書館情報サービス課相互利用係）

図書館日誌（平成18年７月～10月）

月 日	項　　目
7月	
3	第143回北分館委員会(平成18年度第１回)
3-14	平成18年度大学図書館職員長期研修(経済学研究科図書室)
3-9/29	国立情報学研究所実務研修(情報システム課)
5	EndNote 講習会(理学部)
7-28	図書館実習(筑波大学１名)
10	平成18年度第２回北海道大学認証基盤整備専門委員会(情報システム課長)
11	平成18年度第１回全学図書担当係長連絡会議
12	CSI 契約説明会(東京)(情報管理課)(情報システム課)
13	第49回北海道地区大学図書館職員研究集会企画委員会(３回目)(北大)
13	平成18年度第１回本館図書選定小委員会
18	ライブラリーセミナー(国内雑誌論文の探し方)
19	平成18年度第４回アウトソーシング検討 WG 会議
19	平成18年度第３回ホームページ委員会
20	平成18年度第２回北分館図書選定小委員会
20	図書館北方資料室見学(福島県立図書館１名)
21	機関リポジトリ構築のためのシステム説明会講師(東京)(情報システム課)
21	平成18年度第３回北海道大学認証基盤整備専門委員会(情報システム課長)
24	文献探索ワークショップ(文学部)
25	ライブラリーセミナー(電子ジャーナルの使い方)
25	図書関係業務統合 WG 会議(第１回)(部長，情報管理課長)
25	附属図書館北方資料室見学(民博のプロジェクト「移民史の比較研究班」９名)
27	MEDLINE 講習会(医) BA 講習会(図・農)
27-28	平成18年度学術ポータル担当者研修講師(東京)(情報システム課)
28	平成18年度第２回学術成果発信小委員会
28	MEDLINE 講習会(図・獣医) BA 講習会(理)
28	電子ジャーナルタスク・フォース北海道地区説明会(北大)
30(日)	オープンユニバーシティ
31-8/8	図書館実習(藤女子大学２名・武蔵女子短期大学４名)
8月	
8	信州大学機関リポジトリ講演会講師(情報システム課)
18	第49回北海道地区大学図書館職員研究集会(札幌国際大学)．講師(情報システム課)
21-9/5	本館蔵書点検
23	ライブラリーセミナー(国内雑誌論文の探し方)
27	本館・北分館閉館(全学停電のため)
28	岩手大学附属図書館副館長来館
28-9/1	北分館蔵書点検
30	ライブラリーセミナー(電子ジャーナルの使い方)
31	平成18年度第２回本館図書選定小委員会
31-9/1	平成18年度学術ポータル担当者研修講師(名古屋)(情報システム課)
9月	
1	第56回北海道地区大学図書館協議会総会(長万部)(館長，部長，情報管理課長，情報サービス課長，情報管理課長補佐)
4-5	九州大学機関リポジトリ技術研修(情報システム課)
5-6	北海道図書館大会(札幌)(館長，情報サービス課長)講師(情報システム課)
6	図書館見学(斜里中学校生徒６名)
7	図書館見学(函館東高校241名)
11	平成18年度第２回楡蔭編集委員会
11	附属図書館北方資料室見学(「無教会全国集会 2006・さっぽろ参加者」80名)
11-12	帯広畜産大学機関リポジトリ技術研修(情報システム課)

月 日	項　　目
11-30	歯学研究科・歯学部図書室臨時閉室(アスベスト除去工事のため)
12	宮崎大学図書館長来館
12	ライブラリーセミナー(国内新聞記事の探し方)
12	「共同防火管理協議会」打合せ会議(情報サービス課補佐)
12-14	北海道地区国立大学法人等係長研修(情報サービス課)
13	平成18年度第４回ホームページ委員会
13	平成18年度第５回アウトソーシング検討 WG 会議
13	札幌キャンパス安全監督者会議(部長)
14	兵庫教育大学附属図書館館長来館
24	北分館臨時閉館(停電のため)
25-27	図書館 IR 研修(お茶の水女子大学・帯広畜産大学各１名)
26	ライブラリーセミナー(電子ジャーナルの使い方)
26	平成18年度第４回北海道大学認証基盤整備専門委員会(情報システム課長)
27	CINAHL 講習会入門・初級編/中・上級編(附属図書館)
28	平成18年度第３回本館図書選定小委員会
28	国立７大学附属図書館協議会(大阪)(館長，部長，情報サービス課長)
28	CINAHL 講習会(附属図書館)
10月	
3	「共同防火管理協議会」打合せ会議(情報サービス課補佐)
3-4	リンクリゾルバ対応システムの開発に関する実務担当者会議(東京)(情報システム課)
4	図書関係業務統合 WG 会議(第２回)(部長，情報管理課長)
6	平成18年度北海道大学附属図書館講演会
6	ライブラリーセミナー(OPAC の使い方)
9-15	Access 2006 Pre-Conference: CARL Institutional Repositories: The Next Generation（カナダ)(情報システム課)
10-12	情報探索入門
11	平成18年度第５回ホームページ委員会
11	平成18年度第６回アウトソーシング検討 WG 会議
13	文献探索ワークショップ(法学部)
13	Sociological Abstracts/ERIC 講習会(附属図書館)
16	ライブラリーセミナー(電子ジャーナルの使い方)
14-11/7	「北分館企画」(特別展示)「本は脳を育てる」
16-19	平成18年度北海道地区国立大学法人等会計事務研修(情報管理課)
17-28	Open Scholarship 2006: New Challenges for Open Access Repositories（英国)(情報管理課，情報システム課)
18	平成18年度第５回北海道大学認証基盤整備専門委員会(情報システム課長)
18	平成18年度第２回「学術コンテンツ運営・連携本部会議」(東京)(館長)
18-19	情報探索入門
19-20	視聴覚資料の取り扱いに関する検討会議(東京)(情報システム課)
20	第49回北海道地区大学図書館職員研究集会企画委員会(４回目)(北大)
23	ライブラリーセミナー(国内雑誌論文の探し方)
23	図書業務担当者連絡部会(ILL 部会-第１回)
24	合同避難訓練(北分館)
25	情報探索入門
26	国立大学図書館協会秋季理事会(仙台)(館長，情報システム課長)
26-27	SciFinder Scholar/Discovery Gate 合同説明会
27	情報探索入門
31	情報探索入門
31	附属図書館北方資料室見学(札幌大学10名)
31	MEDLINE 講習会(獣医学部)

北海道大学附属図書館報「楡蔭」（ゆいん）　**第124号**　平成18年11月30日発行

〈編　集〉　「楡蔭」編集委員会

〈発　行〉　北海道大学附属図書館　〒060-0808　札幌市北区北８条西５丁目
TEL ：011-706-2967　FAX ：011-747-2855　ホームページ　http://www.lib.hokudai.ac.jp